

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	家島明彦 (いえしま あきひこ)	所属	島根大学教育開発センター
研究集会等名称	マンガ心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 16名 (うち認定心理士 4名) 非会員 7名 (うち認定心理士 -名) <u>合計 23名</u> ※ML登録者数は66名</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>★日本心理学会第74回大会ワークショップの開催 日本心理学会第74回大会で以下のワークショップを開催した (2010年9月22日、於：大阪大学豊中キャンパス)。約30名が参加した。 マンガ心理学の展開(2)：医学・臨床心理学からのアプローチ 企画者 マンガ心理学研究会 司会者 家島明彦 (島根大学) 中澤 潤 (千葉大学) 話題提供者 齋藤清二 (富山大学) 岩宮恵子 (島根大学) 横田正夫 (日本大学) 菅村玄二 (関西大学)</p> <p>★日本心理学会第74回大会ワークショップの企画 2011年度は2009年度からの第3弾として以下のワークショップを企画している。 (採択済み) マンガ心理学の展開(3)：社会心理学・社会学からのアプローチ 企画者 マンガ心理学研究会 司会者 菅村玄二 (関西大学) 中澤 潤 (千葉大学) 話題提供者 小杉考司 (山口大学) 北村英哉 (東洋大学) 家島明彦 (島根大学)</p> <p>[企画趣旨] 近年、マンガに関する心理学研究への関心が高まっており、マンガおよびマンガ読者への心理学的アプローチの体系化が求められている。日本心理学会マンガ心理学研究会 (http://manga-psy.org/) は心理学領域における様々なマンガに関する研究の知見を集約し、研究者の交流や情報の交換を促進することを目的として活動している。第1弾では教育心理学・認知心理学・感性心理学からのアプローチ、第2弾では臨床心理学・医学からのアプローチというテーマでWSを開催してきたが、第3弾となる今回のWSでは、社会心理学・社会学からのアプローチというテーマで、マンガ/マンガ読者に対する社会心理学的/社会学的アプローチについて検討する。登壇者には、具体的な研究事例の紹介や、今後の展開が期待される研究の可能性や方向性について発表していただく。最後に、質疑応答と全体討論を行い、マンガ/マンガ読者と社会心理学/社会学の関連について参加者の方々と議論する。</p> <p>★これまでのワークショップ/シンポジウムの録音データから議事録を作成 助成金を使用し、以下4つのマンガ心理学関連ワークショップ/シンポジウムの録音データから議事録を作成した。①日本心理学会第70回大会ワークショップ「マンガと心理学のコラボレーション：マンガ心理学の可能性を考える」(2006年11月3日、於：福岡国際会議場)、②日本心理学会第71回大会ワークショップ「マンガ心理学の方向性：これまでのマンガ研究とこれからのマンガ心理学」(2007年9月19日、於：東洋大学)、③日本心理学会第73回大会ワークショップ「マンガ心理学の展開(1)：認知心理学・教育心理学・感性心理学からのアプローチ」(2009年8月27日、於：立命館大学)、④日本発達心理学会第20回大会自主シンポジウム「ビジュアル・ナラティブ研究の可能性(2)：マンガの物語構造を漫画家/小説家/漫画原作者の立場から検討する」(2010年3月26日、於：神戸国際会議場)。近日中に公式ウェブサイト (http://manga-psy.org/) にて公開予定である。</p>		